

協働事業提案募集採択事業 1

事業名

「育ちをサポート！おでかけ育メン育女応援団」事業

事業の概要

地域で男女が協力して次の世代を育成する社会の実現に向けて、地域の育メン育女の人材を確保し、既存の子育て支援の場を活用した異世代交流の場を設定することにより、来年度以降も、地域のあらゆる世代の豊かな人材による、地域の子育て支援の場での活動が持続することを目的として、下記の事業を行った。

- 育メン育女の募集・登録
- コーディネート・派遣
放課後子ども教室・放課後児童クラブ・子育てサロンでの活動、イベントへの派遣
- 子育て支援の場のニーズ調査
- 活動後のアンケート調査

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
NPO法人保育サポート あい・あい	・事業の企画・立案、参加者募集、進行管理、事業遂行、 開催状況の記録
備中県民局	・具体的な企画・実施に必要な支援及び広報

実施状況

- 育メン育女募集・登録 63人 総社市内外より登録
- 放課後子ども教室、放課後児童クラブ、子育てサロン、幼稚園などでの活動
絵手紙や将棋などの教室（通年）、夏休み絵画指導などを行った。



放課後子ども教室での絵手紙教室



放課後児童クラブでの絵画教室



その他イベント

- 総社市子ども条例制定記念イベント「チュッピータウンへ行こう！！」（11／3）

各ブースにおいて体操（大学生）、和楽器、バルーンアート、昔遊び、マジックなどで活動した。参加人数（子どものみ）356人 派遣人数 22人



竹笛作り



昔遊び



大学生による体操

○活動後のアンケート調査

- ・各種イベントへの派遣依頼が多い
 - ・専門的な技術を持たれた方の希望が多い
- <登録者の感想>
- ・今後もコーディネートを頼みたい。活動を続けたいと思った。
 - ・スタッフが同行してくれたので、安心して参加できた。
 - ・交通費が出るので、他の人を誘いやすかった。

成果・効果

- ・夏休みなど長期休業中の活動や、子育て関連のイベントに重宝された。
- ・応援団の登録者が派遣を通じて知り合った地域の新年の行事に参加するなど、交流の広がりが見られた。
- ・全ての登録者が今まで子育てのボランティアは初めてであった。人材の掘り起こしに大いに役立った。
- ・派遣先での評判も非常に良く、「ぜひ来年も来て欲しい」との申し出や、他イベントへの派遣依頼が来るなど、地域の人と子育て支援の場につながった。

来年度以降に向けての展開

- ・今年度の活動成果から、来年度も育メン育女応援団を活用したいという地域の行事が既に複数企画されている。
- ・今年度活動が少なかった方々に、平成25年度は活動してもらえようコーディネート及び研修を行う。
- ・活動を継続しながら、さらに多くの人に活用してもらえよう、PR方法・活動方法を工夫する。

協働事業提案募集採択事業 2

事業名

「備中の伝統である綿で玉島の町を白く埋め尽くす。チャレンジャー 2」事業

事業の概要

備中の伝統である綿で玉島の町を白くし、備中ブランドとして全国に備中綿の情報を発信することにより、地域の活性化を図り、観光客の誘致に努めていくことを目的として、下記の事業を実施した。

- 1 玉島の観光コースに綿を植えた。
- 2 綿の種・苗を配布した。
- 3 植樹祭、鑑賞会、収穫祭、写真展、発表会を行った。
- 4 玉島の小学校に綿を授業の一環として植え、出前講座を行った。
- 5 綿の糸繰勉強会を開催した。
- 6 綿の種の袋詰めや苗の育成などの作業を障害者施設に外注した。
- 7 ホームページで備中綿を全国に情報発信した。
- 8 ディスプレイ用として綿の枝を玉島ほか各地に配布、展示した。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
NPO法人備中玉島観光ガイド協会	・事業の広報、実施準備、実施 ・個々の事業の管理
備中県民局	・具体的な企画・実施に必要な支援及び広報

実施状況

- ・平成24年 5月18日 植樹祭
円通寺の綿畑に約700本の綿を植えた。
- ・平成24年 8月18日 鑑賞会
円通寺の綿畑で鑑賞会を行った。約80人の参加があった。
- ・平成24年 9月15日 収穫祭
綿の収穫祭を行った。約100人が参加。
地元玉島少年少女合唱団による綿畑での合唱も行った。
- ・平成24年11月18日 写真コンテスト表彰式・発表会
備中玉島の綿写真コンテストの表彰式を行った。
その後、障害者福祉施設大樹玉島作業所、玉島南小学校、境港市役所職員、NPO法人備中玉島観光ガイド協会がそれぞれの綿の取組について発表、意見交換を行った。
- ・その他、綿のディスプレイの配布、小学校への出前講座、糸繰勉強会、綿・綿製品の販売・事業化についての研究などを行った。



収穫祭の様子



写真コンテスト表彰式・発表会の様子



綿のディスプレイ



出前授業



福祉施設での作業の様子

成果・効果

- ・ディスプレイや小学校への出前講座などを通し、綿が玉島の町に広く浸透してきつつあり、地元の綿への関心が高まり、また全国からもホームページなどで情報を得た観光客が玉島へ多く訪れた。
- ・福祉施設に種取りなどの仕事を委託することで、自立支援を行った。
- ・東北支援用に支援NPO法人から種15万粒、苗1万ポットの注文があった。
- ・綿を植えることで耕作放棄地の解消に役立った。
- ・綿、綿製品の販売、事業化に向け専門家のアドバイスを受けるなど、新たな可能性を検討できた。

来年度以降に向けての展開

- ・観光ガイド・綿事業・情報発信は合わせることでより大きな相乗効果が得られることが分かった。
- ・引き続き事業を継続しながら、ホームページなどで玉島の綿についてさらに情報発信するなど、玉島の綿の文化復活と伝承、地域の活性化、観光客の誘致に努めていく。
- ・栽培経費や人材の確保など、今後の事業を継続・拡大していく上での問題点も出てきたため、綿・綿製品の販売など事業化に向け研究を重ねていく。

協働事業提案募集採択事業 3

事業名

備中地域町並み保全と活性化事業

事業の概要

備中の各地域の伝統的景観を保つ町並みや集落を探訪し、各地域間の交流を行うことで町並み保全と地域活性化を図る。

- ・町並み保全に興味のある人を対象に備中各地域交流バスツアーを実施（4回）
- ・全国町並みゼミ福岡大会に参加し、他県や先進地域の状況を視察

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
備中地域町並み保全・活性化会議	<ul style="list-style-type: none"> ・町並み保全団体同士の交流、親睦及び支援の場づくり ・地域交流バスツアー及びワークショップの企画・立案、実施 ・専門家の派遣、ノウハウ移転 ・地域情報の発信 ・地域団体の掘り起こし ・各種行事の参加者募集 等
備中県民局	<ul style="list-style-type: none"> ・町並み保全・活性化事業に対する助言 ・備中地域の団体、自治体間の調整 ・情報の収集整備・発信 ・各種行事の参加者募集への協力 ・予算の範囲内における補助金の交付 等

実施状況

1 町並み見学バスツアー

備中管内各地域へのバスツアーを次のとおり開催した。

- | | | |
|------------------|-------------------------|-------|
| ・新見御殿町（10/ 6(土)） | ツアー参加者約20名、新見関係者約20名 | 計約40名 |
| ・高梁吹屋（11/10(土)） | ツアー参加者約20名、高梁吹屋関係者約10名 | 計約30名 |
| ・矢掛本陣（1/26(土)） | ツアー参加者約30名、矢掛関係者約20名 | 計約50名 |
| ・玉島・鴨方（2/26(土)） | ツアー参加者約35名、玉島、鴨方関係者約25名 | 計約60名 |



○町並み見学バスツアーの様子

2 第35回全国町並みゼミ福岡大会視察

平成25年度に開催する倉敷大会に向けて、全国町並みゼミ福岡大会(11/30～12/2)に約40名(うち30名程度が初参加)が参加した。



○第35回全国町並みゼミ福岡大会視察

3 ぶらっと備中・町並みゼミの開催

9月22日(土)に、第36回全国町並みゼミ倉敷大会に向けてのプレゼミとして、備中地域のまちづくりの状況報告、パネルディスカッション等を行うゼミ(参加者約180名)を開催した。

〃 〃

〓 成果・効果 〓

- 1 備中各地域の伝統的景観を保つ町並みや集落を探訪し、各地で交流会を行い、地域の問題などを共に考えながら町並み保全と活性化を探ることができた。
- 2 第36回全国町並みゼミ倉敷大会について、平成25年9月20日～22日の3日間開催されることが決定しており、この大会に向けて、運営方法等を参考とすることができた。
- 3 第36回全国町並みゼミ倉敷大会に向けてのプレゼミとしてぶらっと備中・町並みゼミを開催し、備中地域の町並みの特徴と課題等を検討することができた。

〓 来年度以降に向けての展開 〓

備中地域の町並み保全活動の組織化等を進め、そのネットワークを活かして第36回全国町並みゼミ倉敷大会を成功に導くとともに、町並み保全の気運を高めていく。

協働事業提案募集採択事業 4

事業名

低炭素グリーン生活推進モデルプロジェクト

事業の概要

備中地域を中心に栽培が盛んだった「キビ」と「ハッカ」の栽培についての研究等を行い、市街地内耕作放棄地の解消と商品化による地域活性化を図った。

- ・キビ及びハッカの耕作拡大への活動
- ・キビの枕、ハッカのカクテル等を中心にした商品化 等

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
元倉敷未来計画	<ul style="list-style-type: none">・低炭素グリーン生活推進モデルプロジェクト事業の企画・立案をすること・公開講座参加者の募集を行い、申込受付及び参加者への通知を行うこと・平成24年度低炭素グリーン生活推進モデルプロジェクトに沿った進行管理を図り、スケジュールに沿った事業遂行を行うこと 等
備中県民局	<ul style="list-style-type: none">・低炭素グリーン生活推進モデルプロジェクト事業に対する助言を行うこと・公開講座参加者の募集に関し、チラシ、ポスターの配付などを行い、支援すること・報道機関等への情報提供を行い、事業成果を高めること・予算の範囲内における補助金の交付 等

実施状況

- 1 キビ殻を使った枕やハッカ菓子など、試作品の作成を実施した。



○キビ殻を使った枕



○キビを使った和菓子

- 2 ハッカを活かした地域ブランドづくり等の参考とするため、「和種薄荷の栽培と未来」と題した講演会を実施（H25. 3. 9）した。



- 3 「薄荷手帳」改訂版及び「きび手帳」の作成、配付等を実施した。



|| 成果・効果 ||

- 1 キビ及びハッカを用いた試作品を作成するなど、PRに努めたことにより、キビ及びハッカの栽培農家の増加が図られた。
- 2 和種薄荷を活かした地域ブランドづくりについて、考察することができた。
- 3 平成23年度に作成した「薄荷手帳」の改訂版、及びキビの栽培方法や特徴、歴史をまとめた「きび手帳」を作成し、身近な農業の大切さを訴えるとともに、地域活性化を図ることができた。

|| 来年度以降に向けての展開 ||

キビ殻を使った枕やハッカ菓子など、試作品の作成を実施した結果、問題点（素材をどう活かすか等）が浮上しており、それらについて検討するなど、さらなる市街地内耕作放棄地の解消と商品化による地域活性化を図っていく。

協働事業提案募集採択事業 5

事業名

地域に新たな仕事とつながりを生み出す「着地型観光プログラム×地域インターンシップ」事業

事業の概要

大学生を中心とする「インターンシップ」が地域資源を伝えることのできる「達人」を発掘し、その達人(パートナー)と協働することで、地域資源を使った着地型観光プログラムを企画開発、提供した。

なお、プログラム開発による観光振興だけではなく、地域に根ざした活動を担う人材の育成や達人の企業支援等も目的とするものである。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
NPO法人 吉備野工房ちみち	<ul style="list-style-type: none">・みちくさ小道プログラムを企画・立案すること・インターンシップ参加者の募集を行い、申込受付及び参加者への通知を行うこと
備中県民局	<ul style="list-style-type: none">・地域に新たな仕事とつながりを生み出す「着地型観光プログラム×地域インターンシップ」事業に対し、助言を行うこと・当該事業に対し、備中県民局管内関係機関や市町等にチラシ・ポスターを配布するなど、広く参加が得られるよう支援すること・募集段階から事業実施に至るまで、マスコミを利用した広報に務め、事業成果を高めること・予算の範囲内における補助金の交付 等

実施状況

1 「みちくさ小道vol.9 吉備野の夜あそび」として、8/20～9/30の間に26プログラムを実施した。

なお、参加者数については、26プログラム(定員総数約1,000名)で、概ね7割程度の参加を得ている。



○実施プログラム（スピリチュアル農民ライブ）



○実施プログラム（イタリアンなタベ）

- 2 県民局とは、「岡山県！ほっとけん！語るけん！」というプログラムを作成し、県民局長を「達人」として、岡山県の未来についてインターンや応募してきた学生達と語った。（9/9(日)実施）



|| 成果・効果 ||

- 1 インターンシップにより新規プログラムの作成、既存プログラムのみがき上げ等ができた。
- 2 「岡山県！ほっとけん！語るけん！」というプログラムにより、岡山県の未来についてインターンや応募してきた学生達と語り、相互理解を深めることができた。

|| 来年度以降に向けての展開 ||

「みちくさ小道」により新規プログラムの作成、既存プログラムのみがき上げ等を行い、地域資源を使った着地型観光プログラムを企画開発していくとともに、提供地域の担い手となる若者を育てていく。

協働事業提案募集採択事業 6

事業名

高校生による備中で暮らすまちの匠(先人)への聞き書き

事業の概要

地域の文化、伝統や技を守り継承していくことと、若い世代の地域への意識高揚のため、高校生が、地域で活動している「お年寄り(先人・匠)」から、知恵や技術、考え方を「聞き書き」し、文章として残した。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
「聞き書き」実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会、ワークショップを企画・立案すること ・研修会及び映画上映会参加者の募集を行い、申込受付及び参加者への通知を行うこと ・成果物を作成すること ・参加する高校生によって年々積み上げられていくネットワークと、それを支える人々との交流を築くこと 等
備中県民局	<ul style="list-style-type: none"> ・「高校生による備中で暮らす匠(先人)への聞き書き」事業に対し、助言を行うこと ・当該事業に対し、備中県民局管内関係機関や市町等にチラシ・ポスターを配布するなど、広く参加が得られるよう支援すること ・募集段階から事業実施に至るまで、マスコミを利用した広報に務め、事業成果を高めること ・予算の範囲内における補助金の交付 等

実施状況

- 1 参加校は、昨年度から参加していた笠岡工業(8名)、岡山龍谷(5名)、矢掛高校(3名)に加え、倉敷中央高校(3名)が新規に参加し、計4校19名となった。(昨年は3校、16名)



2 12月22日にフォーラム（成果発表会）を開催した。



3 事業の内容をまとめた冊子「聞き書き」2012笠岡」を3月に発行した。



成果・効果

- 1 「聞き書き」を通じて、先人から知恵や技術、ものの考え方を学び、文章としてまとめ、若い世代へとつないでいくことができた。
- 2 フォーラム（成果発表会）を開催することにより、発表者である高校生が、人に伝えることのポイントを意識するようになった。

来年度以降に向けての展開

「聞き書き」を体験した先輩生徒にフォーラムに参加してもらうなどして、つながり作りを行い、先人から知恵や技術、ものの考え方を学び、文章としてまとめ、若い世代へとつないでいくというこの事業を発展させていく。